

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
認知症の理解Ⅱ Understanding Dementia Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
認知症の理解Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護福祉士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田 晴美	福祉棟2F	月・火・水・木の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
<p>認知症の理解Ⅱでは、認知症の理解Ⅰで学んだ医学的知識をもとに、非薬物療法の学習を行う。調査した内容を十分に検討し理解したうえで、利用者を設定したロールプレイによる発表を行い、クラス全体の共通理解を図っていく。その後、非薬物療法の一つである「芸術療法」を学生自身が体感することで、療法の効果と必要性を理解する。認知症がある人の心理・行動の特徴を理解し、本人および家族への支援を考える。また、認知症がある人に対する様々な人権侵害を理解し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。</p>				
授業の目標				
<p>①認知症がある人にとっての望ましい環境を、考えることができるようにする。                  ②認知症の非薬物療法の種類を列挙し、具体的な方法が説明できるようにする。                  ③芸術療法(臨床美術)が、認知症高齢者のQOL向上に効果があることを、体感できるようにする。                  ④認知症がある人を介護する家族のストレスの原因や、対処方法について説明できるようにする。                  ⑤認知症がある人への人権侵害の現状を理解し、対策に対する自分の考えを述べるができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>認知症の理解Ⅱでは、認知症の理解Ⅰで学んだ基礎的知識をもとに、様々な行動に対応し、尊厳を重視した介護を行うための基礎的能力を養う。講義、演習、グループ学習やディスカッションを通して認知症介護への理解を深める。また、認知症の理解Ⅰに引き続き、認知症に関連するトピックスを新聞や雑誌などから選び、その記事の概要と感想を発表することを課題とする。</p>				
学習の成果(学習成果)				
<p>①認知症がある人への効果的な非薬物療法の種類と概要を、説明することができる。                  ②認知症がある人と家族に対する、尊厳を支える地域のサポート体制について、説明することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明) 実習施設での認知症がある方との関わりの振り返り			【個人ワーク】
第2回目	認知症と環境の力① 在宅環境 グループホーム、宅老所について 視聴覚教材「宅老所井戸端げんき」の視聴			
第3回目	認知症と環境の力② グループディスカッション 施設環境		【グループディスカッション・発表】	
第4回目	認知症ケアの原理・原則 認知症がある人に対する介護 パーソン・センタード・ケア			
第5回目	認知症の非薬物療法① <資料提出日は授業中に指示する>			【調査学習】
第6回目	認知症の非薬物療法②			【調査学習】

第7回目	認知症の非薬物療法③ 調査学習のまとめ、ロールプレイの練習	【ロールプレイの練習】
第8回目	認知症の非薬物療法④ グループ1	【ロールプレイによる発表と補足】
第9回目	認知症の非薬物療法⑤ グループ2	【ロールプレイによる発表と補足】
第10回目	芸術療法の実際 「臨床美術体験」 (臨床美術協会会員 アトリエこぼこ 小橋 操先生) 【演習】<体験後のレポート課題 提出は第11回>	
第11回目	認知症の人と家族への支援① 家族のストレス、家族へのレスパイトケア	【講義】
第12回目	認知症の人と家族への支援② 視聴覚教材「ハルさんの物語」の視聴 認知症がある人に対する人権侵害の問題と対応	【グループディスカッション・発表】
第13回目	認知症になっても安心して生活できる社会とは① ブレインストーミング・KJ法による	【グループディスカッション】
第14回目	認知症になっても安心して生活できる社会とは②	【発表・まとめ】
第15回目	授業のまとめ、国家試験対策	
事前・事後学習	授業で不明であったことは、図書館などを利用して次回授業までに調べておくこと。わからない時には担当教員に質問すること。認知症に関する社会の様々な情報に関心に向けておくこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。グループ学習時は協力して課題に取り組み、意見交換により課題を深く追求すること。
レポート	10%	芸術療法の体験後のレポートで評価する。体験の感想、学び、今後の展望が記載されていること。
調査報告書	10%	認知症の非薬物療法の資料で評価する。評価基準Sは、課題を十分に理解しテーマを掘り下げて調査しており、分かりやすい資料を作成し期限厳守して提出すること。使用した文献や資料を明らかにしていること。
小テスト		
試験	50%	授業の振り返り、知識習得の確認のために試験を行う。問題は文章の正誤を判断するものや語群からの選択問題、穴埋め問題等。
発表内容 (態度含む)	20%	①非薬物療法のグループ学習②認知症に関するトピックスで評価をする。創意にあふれ、誰にも分かりやすく工夫した発表であり、他者を惹きつけるものであること。グループで協力しロールプレイを行っていること。
その他		
教科書と参考図書		
新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解 中央法規出版 (認知症の理解 I と共用)		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験 和田 (職種: 看護師、職歴: 通算10年)、学外講師 (臨床美術に携わる実務者) 授業・グループ学習・ディスカッションには積極的に参加し、学びを共有してほしい。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い、届出等は速やかに提出すること。		